

## 第1群研究発表

### 1 高校生の自立に関する一考察

潮江中学校	岩 田 禮 子（10回生）
長者小学校	岩 崎 美奈子（14回生）
高岡中学校	○渡 辺 雅 代（16回生）
城山高等学校	高 橋 みや子（19回生）
高知小津高等学校	吉 良 三枝子（22回生）

#### I はじめに

『自立』とは、人に頼らず自分自身の脚で立つことを意味している。すなわち『ひとりだち』である。

『大学の講義中に私語が多い』と言われ始めて久しくなるが、最近では成人式の例でも見られたように、遅刻や私語等けじめのつかない態度や行動を示したり、また『指示待ち族』といわれる現代の若者や、『生きがい』を見つけることができず、親への依存関係から脱することができないでいる若者も多くいる。

小・中・高等学校の教育現場に勤務する私たち養護教諭は、それぞれの段階での“行動の幼さ”を痛感している。これは、長引く青年期や、自立の遅れではないかと考え、高校生に焦点をあて、自立に関する実態を調査することにした。

#### II 調査方法並びに調査校

アンケート様式で、高知市内及び高知市周辺の普通高校と実業高校を5校抽出し各学年2クラス、合計1083名の高校生に実施した。調査時期は平成7年12月である。

#### III 調査内容

A まず、あなたご自身のことをおたずねします。

☆ あなたの学年、性別などについておたずねします。

問1 学年（①・②・③）年

問2 性別（男子・女子）

問3 住居（下宿・寮・自宅）

問4 兄弟姉妹数（1人・2人・3人・4人以上）

問5 あなたは現在部活動に参加していますか。（運動部・文化部・入部していない）

☆ あなたは次のようなことをどれくらいしていますか。

問6 朝一人で起きる

問7 自分の食べた食器を流しへ運ぶ

問8 遊びの途中でも決めた時間がきたらやめる

問9 テレビは見たいものだけ見てだらだら見ない

問10 自分で計画を立てて勉強している

いつもそうしている  
だいたいそうしている  
どちらともいえない  
あまりそうしていない  
ぜんぜんそうしていない  
（解答項目）

問11 自分の部屋の掃除をする

問12 約束したことは守る

☆ 次のような事をいつ頃から自分でやれるようになりましたか。あるいはやれるようになると思いますか。

問13 朝一人で起きる

問14 遅刻しないように気をつける

問15 言葉づかいに気をつける

問16 箸の持ち方に気をつける

問17 服装・髪型に気をつける

問18 自分のへやの掃除をする

小学校低学年

小学校高学年

中学校時代

現在

大人になる頃

B 次に家族の中でのあなたをおたずねします。

☆ あなたと親との間柄はこれまでどうでしたか。そして、これからどうなと思いますか。

問19 小学校5・6年の頃

問20 中学校2・3年の頃

問21 現在

問22 20歳位の頃

問23 25歳位の頃

とてもまくい

かなりまくい

ややまくい

ややまくいかない

かなりまくいかない

ぜんぜんまくいかない

☆ あなたは、現在お父さんにどういう気持ちを持っていますか。

問24 自分の気持ちをわかってきている

問25 お父さんの判断は信頼できる

問26 お父さんに心配かけたくない

問27 お父さんを尊敬できる

とてもそう思う

かなりそう思う

ややそう思う

あまりそうおもわない

まったくそうおもわない

☆ あなたは、現在お母さんにどういう気持ちを持っていますか。

問28 自分の気持ちをわかってきている

問29 お母さんの判断は信頼できる

問30 お母さんに心配かけたくない

問31 お母さんを尊敬できる

C 次に『おとな』についての考えをおたずねします。

問32 あなたは、『おとなの人』といえば、何歳くらいからだと思いますか。

①16～18歳 ②19～20歳 ③21～24歳 ④25～29歳 ⑤30～34歳 ⑥35歳以上

問33 あなたは、早く大人になりたいと思いますか。（それはどうしてですか）

①とてもなりたい ②かなりなりたい ③ややなりたい ④あまりなりたくない ⑤ぜんぜんなりたくない

問34 それでは、あなた自身が大人になるのは、何歳くらいからだと思いますか。

☆ 『おとなになる』のに、次のような事はどれくらい必要だと思いますか。

問35 ある程度の学歴をつける

問36 経済的に自立する

問37 身体的に成熟する

問38 自分の行動に責任を持つ

問39 親から精神的に自立する

問40 きちんとした職業につく

問41 人間関係をうまくする

とても 必要  
かなり 必要  
やや 必要  
あまり 必要でない  
ぜんぜん必要でない

D 最後に、あなたのこれからについておたずねします。

問42 あなたは高校卒業後、どんな進路を考えていますか。

① 4年制大学への進学 ② 短大への進学 ③ 専門・専修学校への進学 ④ 就職 ⑤ その他

☆ あなたは高校生として、自分をどんなタイプだと思いますか。

	とてもそう	かなりそう	あまりそうではない	ぜんぜんそうではない
問43 ユーモアのある生徒	①-----②-----③-----④			
問44 勉強の得意な生徒	①-----②-----③-----④			
問45 先生から信頼されている生徒	①-----②-----③-----④			
問46 じみちな努力がたの生徒	①-----②-----③-----④			
問47 スポーツの得意な生徒	①-----②-----③-----④			
問48 友達つきあいのよい生徒	①-----②-----③-----④			
問49 個性のはっきりした生徒	①-----②-----③-----④			

問50 あなたは現在“生きがい”（夢中になれるもの・生きる目標・心の支えなど）と呼べるものが何かありますか。

\* ある人はそれは何ですか。

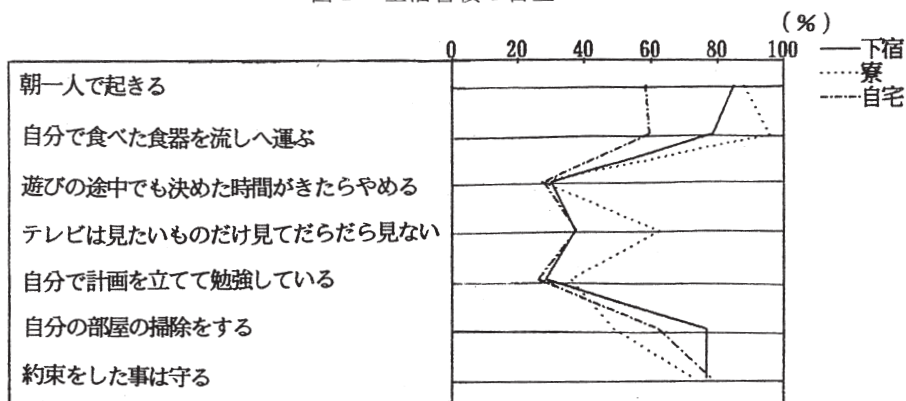
\* ない人は、将来どんなことを“生きがい”にしたいですか。

#### IV 調査結果及び考察

高校生の自立を問題にする前にサンプルの紹介をする。サンプルの89.3%は自宅から通学しており、兄弟数は2人が51.2%を占めている。部活動への参加も学年が進むにつれ入部率が悪く、1年の時には44.6%もあった運動部への入部率も3年生になると19.2%と落ち込む。

##### 1 生活習慣の自立

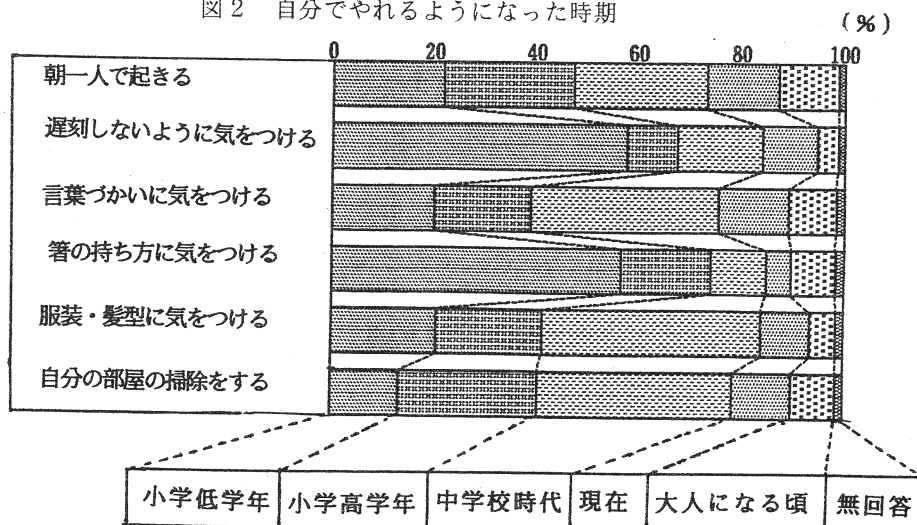
図1 生活習慣の自立



自分で自分の生活が送れる、それが自立の第一歩であると考えた時、図1の様に

- ① 寮生や下宿生では自分でやらざるを得ない環境にいるため「一人で起きる」とか「食器を流しへ運ぶ」などの率が高いと思われる。下宿生や寮生は自宅生に比べ、生活習慣の自立が早い。
- ② 男女別で見ると、「テレビをだらだら見ない」のみ男子が高値である。男子は自分の興味ある番組を選択しているのか、あるいはテレビ以外の興味を持つ対象が多いかもしれない。それ以外は女子の方が明らかに、生活習慣が自立している。
- ③ 「約束したことは守る」は相手がいてしなければならないことであり、人とのかかわりの中で守らなければならないことが高率であることは、高く評価される。

図2 自分でできるようになった時期

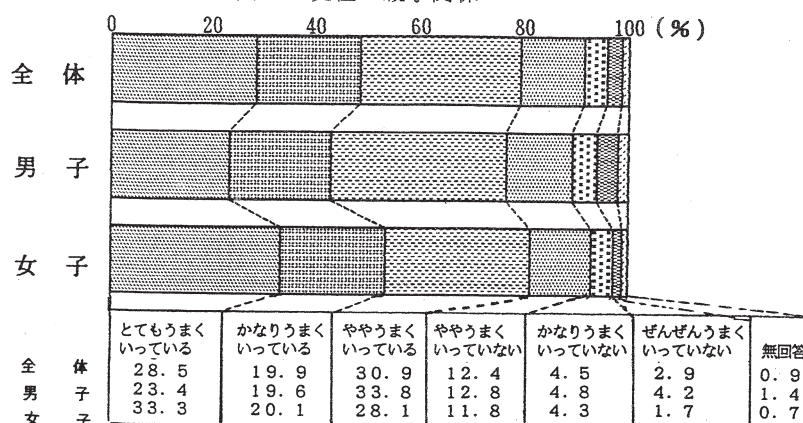


それでは本当にやれる能力がないかどうかをアンケートしてみた。結果は図2の様に、日常の基本的な生活を送る能力は8～9割の生徒ができる様になっている。しかし、実際には習慣化されていない。これは親に依存した生活パターンがあるからではないだろうか。

## 2 親子関係について

高校生にしては親任せの生活をしているという姿が浮かんできたので、ここで改めて親との関係を調べてみた。その結果、図3の様に

図3 現在の親子関係



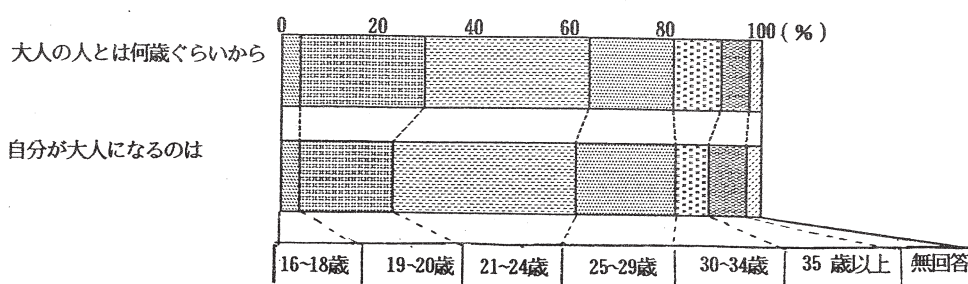
- ① 「とても」「かなり」「やや」を合わせると8割の生徒が「うまくいっている」と答えている。これは驚くべき数字である。子供たちは家庭では居心地の良い状態にあると思われる。
- ② 女子は男子より親子関係がうまくいっていると感じているものが多い。
- ③ 一人っ子は親が過保護・過干渉になりやすいと思っていたが、親子関係においては、兄弟・姉妹のある者と同じような傾向があり、有意差は見られなかった。
- ④ 父親に対する気持ちは、男女の間に有意差は見られないが、母親に対してはかなりの差が見られる。すべての項目について男生徒よりポイントが高く、特に「お母さんに心配をかけたくない」と答えた女性徒は67.1%を占めている。
- ⑤ 「親との関係がうまくいっている」と「自立」との相関関係を考える時、心理的離乳の遅れを感じる。離れられないのか、離せないのか。これからの課題である。

### 3 大人への意識

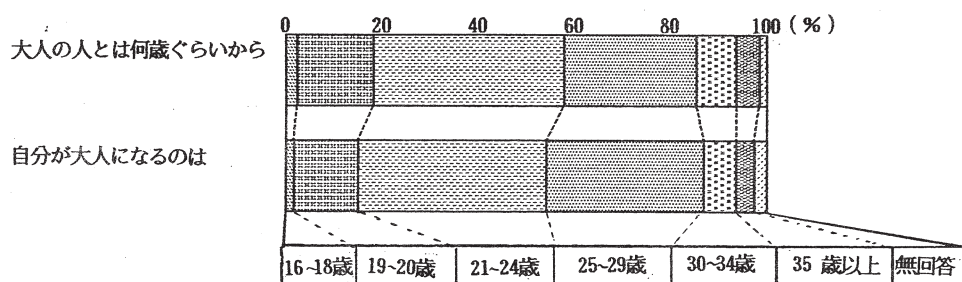
親に依存している高校生たちは、大人へのイメージをどのように感じているのであろうか。図4から見ると

( 男 子 )

図4 大人への意識



( 女 子 )



- ① 「大人のひととは一般的に21~24歳ぐらいであると見、自分が大人になる年齢と、ほぼ一致している。しかし、男女差を見ると女子に比べて男子の方がもっと早く大人になると思っている。
- ② 「早く大人になりたいですか」の質問に対して、約2割の生徒が『とても・かなり』と答えている。理由は“大人は自由だから” “早く自立したいから”である。反対に『全然なりたくない』と答えた者も1割程度いる。“今が責任がなくて気楽で楽しい”と答えている。あと、約7割の生徒が『なりたくない・なりたくない』複雑な心境である。“責任をもたなくてはいけませんが、人間関係が大変そうで自信がない”など、『大人』になることへの不安をのぞかせている。



③ 「大人になるのに必要なこと」で『とても必要』『かなり必要』と回答があったものは次の順である。

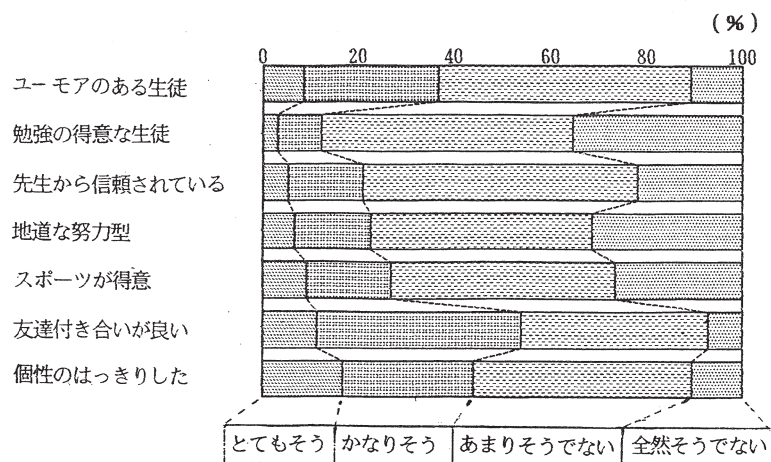
- 1 位・・・自分の行動に責任を持つ。
- 2 位・・・親から精神的に自立する。
- 3 位・・・経済的に自立する。
- 4 位・・・人間関係をうまくする。
- 5 位・・・きちんとした職業につく。
- 6 位・・・身体的に成熟する。
- 7 位・・・ある程度の学歴をつける。

高校生たちは、大人になるためには『学歴』よりも『行動』に責任を持ち、『精神的に自立』することが大事だと考えている。しかし、実際には自分の進路について、4年制大学への進学を希望している者が47.2%（男子58.4% 女子38.0%）を占め、進学しないで就職すると答えている者は17.7%にとどまっている。

#### 4 自己像について

高校生たちは自分自身をどう評価しているかというと、図5の様に

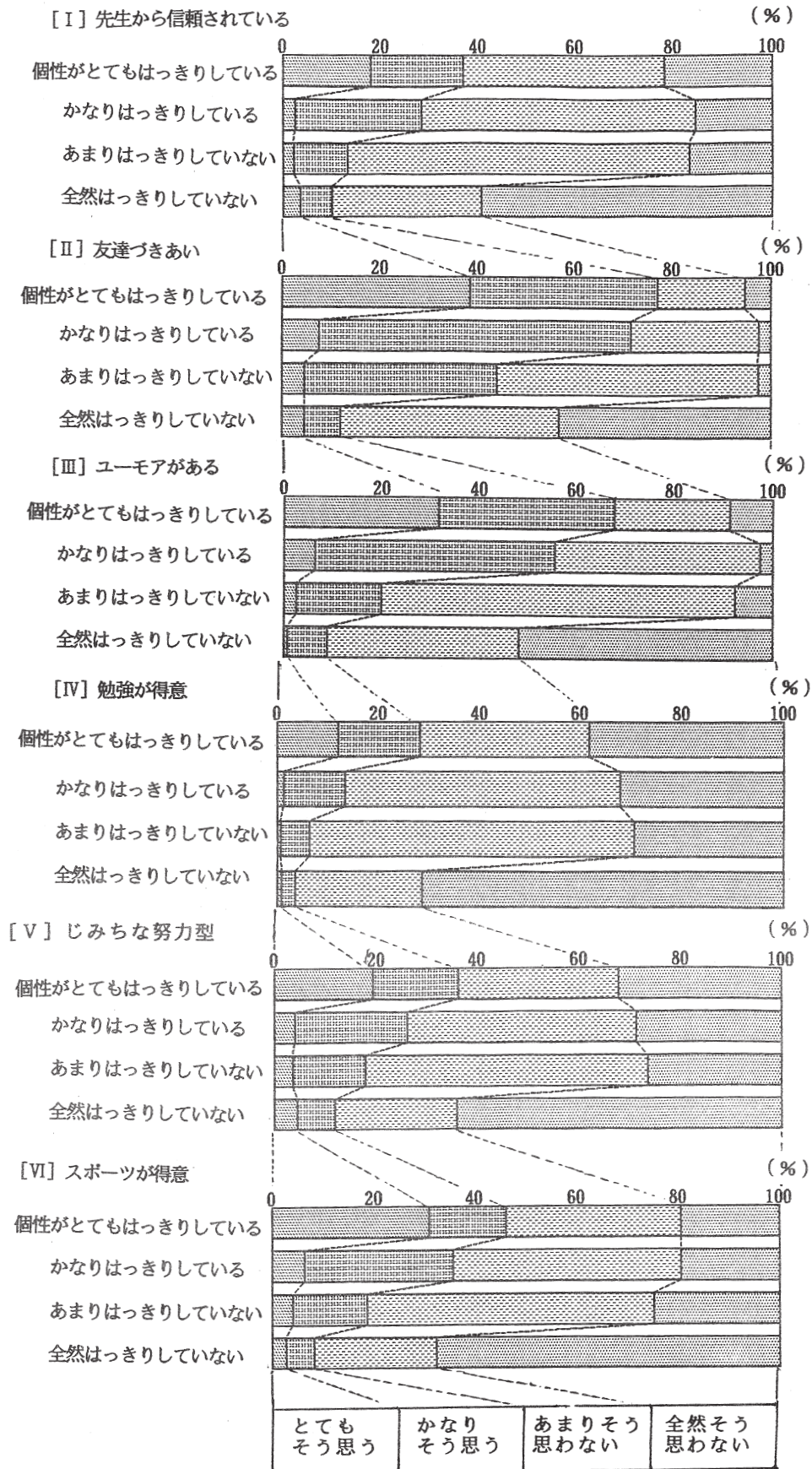
図5 自己像



第1位は「友達付き合いが良い生徒」であり、2位は「個性がある生徒」、3位「ユーモアのある生徒」となっている。反対に「勉強が得意」「先生から信頼がある」「地道な努力ができる」の項目についてはかなり自己評価が低く、1～2割の生徒しか「そうである」と思っていない。

そんな中、「個性がある」と自己評価をしている生徒がどのような自己像を持っているのかをクロス集計してみた。

図6 個性的な生徒の自己像



結果は図6の示すようにすべての項目（先生から信頼されている。友達つきあいが良い。ユーモアがある。勉強が得意。地道に努力する。スポーツが得意。）において「とてもそう思う」と答えている率が高い。特に「友達つきあいが良い」「ユーモアがある」について約7～8割の生徒が、「とても・かなりそうである」と答えている。そこで「個性がとてもはっきりしている」と答えた生徒の内面を推測してみると、自分の長所や短所を含めてすべての自己を個性として容認し、他からの肯定的評価はもとより否定的評価を受けた時にも、それが自分だとして受け入れ、動揺することなく精神的にも安定した生活をしているであろうことが考えられる。すなわち、自分自身のセルフエスティームを高め、自分を自分として認めること、これが「自立」へのキーポイントとなるであろう。

## 5 生きる目標・心の支え

では、今の高校生たちはどんなところに生きがいを感じているのであろうか。まず、「今、生きがいがある」と答えた生徒は58.5%であり、「生きがいがない」は38.1%であった。どんなところに生きがいを感じているかは、男子は「部活や趣味」に生きがいを感じ、女子は「趣味や友達とのつき合い」に生きがいを見いだしている。設問の時、「生きがい」を「夢中になれるもの・生きる目標・心の支え」としたために、高校生の生活上の身近な内容が出ている。

「今、生きがいがない」と答えた生徒は、「将来もどんなことを生きがいにしたらいいのかわからない」と答えた者が大半を占めていた。しかし、中には少数ではあるが「人のために役立ちたい」「ボランティアをしたい」などの前向きな姿勢を持った生徒もいた。

## V ま と め

この調査を通して、今の高校生は、「自立」にむけてかなりしっかりしたものを持っているものの、さまざまな環境要因から、自立した行動を求められることのない家庭生活を送っていることがうかがわれる。また、テストや部活動、複雑多岐に渡る友人関係に気を配るなど、ゆとりのない学校生活に疲れ、「勉強も得意でない」「先生からも信頼されてない」という自己像を描いている様に思われる。

高校生の自立のためには、「これから生きていこうとする主体的な自分、真の自分といえるような自分」を求めて模索していくことが課題ではないだろうか。すなわちアンデンティティの確立である。そのためには、一人一人の生き方を認め育てていこうとする周りの親や教師たちの姿勢が不可欠である。

## 【参考文献】

- |        |               |          |      |
|--------|---------------|----------|------|
| 深谷昌志   | 「自立の遅れがちな高校生」 | モノグラフナーウ | 1993 |
| 無藤隆也   | 「発達心理学」       | 岩波書店     | 1995 |
| 岩井完一郎  | 「自立のすすめ」      | 弘文堂      | 1990 |
| 関  炯 一 | 「大学生の心理」      | 有斐閣選書    | 1994 |